

視点

埼玉県産学官交流 プラザの22年

埼玉県産学官交流プラザ 会長 河野 律子



1988年2月24日に、埼玉県産学官交流プラザは発足しました。それから22年、埼玉県の技術支援機関（現：埼玉県産業技術総合センター）に事務局を担っていただき、産学官の名を冠した異業種の交流活動を続けてきました。

大学に産学連携機関や技術移転機関が生まれ、産学連携が本格化したのが2000年前後です。7つの大学（当初）、3つの金融機関との連携というしくみは、画期的で意欲的な取り組みであったと思います。

埼玉県産業技術総合センター技術支援室のご協力を得、記録を紐解いてみました。

「国際化、業際化によって技術力と情報力を兼ね具えることが企業経営にとって不可欠な要素となっている。このような背景のもとに、県技術交流プラザ関係者が集結し、中心となって産、学、金融、行政を結束し、新たな交流活動組織を形成する必要に迫られ、異なった技術、知識など経営資源を組み合わせ、複合化させ新しい展開を図ることを目的」に、「産学官が有機的に連携しながら交流の究極目的である新技術開発、新製品開発など具体的な成果を目指し、活発に活動を展開している」と会の始まりが記載されていました。

技術交流プラザとは、「地場企業の育成をめざし、中小企業の異業種間の技術交流・技術移転を促進するため」に1983年にはじまった県の技術支援機関による技術支援のための異業種交流事業です。毎年30名ほどの会員で1～3年間、情報交換や新製品開発の活動をする会で2008年まで多くの埼玉県内企業を支援してきました。当会は、この技術交流プラザをより一歩進めるために、そして新たな価

値を生み出すための組織として誕生しました。これまでの活動内容を少し振り返ってみましょう。

1988年はグループに分かれ徹底的な討議と、テーマの設定、大学の先生からのアドバイスなどが行われました。これ以降、グループや分科会に分かれた活動が、参加企業のニーズに合わせて実施されてきました。

1989年の第1回講演会では、武蔵野銀行の研修室をお借りして、「エネルギーの有効利用が地球環境を救えるか」、「最近の為替金利動向について」という異なる2つのテーマが話されています。これは、一歩先の技術を知ることと、経営に必要な情報を得ることという、技術を持つ企業の戦略的意思決定に役立つ情報収集のためという意図を感じることができます。このような多分野の企業が直面する課題解決につながる講演会は、現在まで取り組んできた大きなテーマです。

2005年には海外視察研修として上海・蘇州を訪れ工場見学と交流を実施しています。さまざまな規模・業種の工場・施設を見学することは、会の重要な活動です。

月日を重ね、諸先輩方により、時代に合わせた先進的な取り組みが行われてきましたが、会を巡る環境は、この22年間で大きく変わってきました。異業種交流の場も多種多様になり、産学連携・産学官連携が制度化してきました。

イノベーションの時代、技術と経営の2つの視点に立ってきた埼玉県産学官交流プラザだからできること、一歩先の異業種交流のあり方を会員企業の皆様と考えて参りたいと存じます。